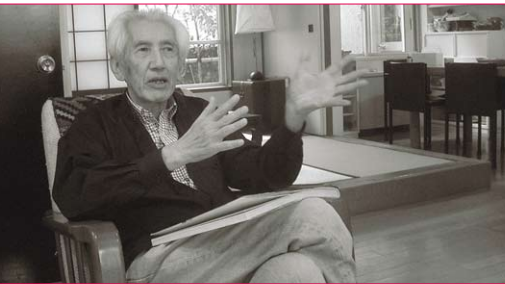


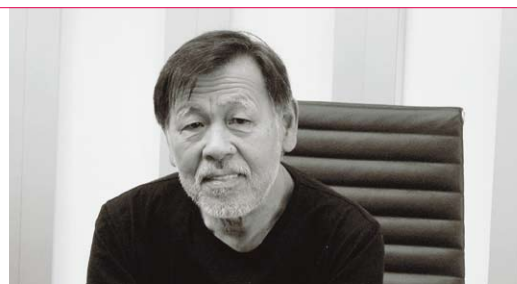
シンポジウム

オーラル・アート・ヒストリーの可能性



2009年11月14日 [土] 14:00-16:30 (開場は13:30)

国立国際美術館地下1階講堂 定員130名



主催 日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ、大阪大学グローバル COE プログラム

共催 国立国際美術館

企画 日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ



シンポジウム オーラル・アート・ヒストリーの可能性

オーラル・ヒストリーとは、語り手が個々の記憶に基づいて口述した歴史です。広い意味では、それを口述史料として記録・保存し、研究することも指しています。近年、様々な分野で聞き取り調査の重要性が認識されていますが、戦後の日本美術について知り、理解を深めるうえで、オーラル・ヒストリーはどのような役割を果たすことができるでしょうか。他方、美術家たちにとって自らの過去を語ることはどのような意味を持つのでしょうか。本シンポジウムでは、日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブのメンバーと、これまで聞き取りを多く行ってきた研究者、学芸員、批評家が、美術におけるオーラル・ヒストリー、すなわち「オーラル・アート・ヒストリー」の可能性について討議します。

プログラム

司会進行=栗田大輔 (東京藝術大学非常勤講師)

開会挨拶 池上裕子 (大阪大学グローバルCOE特任助教)

「オーラル・アート・ヒストリーとは何か」
加治屋健司 (広島市立大学准教授)

「オーラル・ヒストリー・アーカイブの日米比較」
池上裕子

「言葉がかたちになるとき」
— 具体美術協会会員連続インタビューの事例を中心に —
尾崎信一郎 (鳥取県立博物館副館長)

質疑応答

コメント1 前田恭二 (読売新聞文化部長)

コメント2 北原恵 (大阪大学大学院文学研究科教員)

コメント3 建畠哲 (国立国際美術館館長)

全体討議

閉会挨拶 加治屋健司

栗田大輔 あわた・だいすけ

東京藝術大学、玉川大学非常勤講師。第13回『美術手帖』芸術評論募集佳作「榎倉康二における出来事性と層の構成」。共著に『現代アート事典』。主な企画展に「ヴィヴィッド・マテリアル」(東京藝術大学、2008年)など。国際シンポジウム「イメージとしての戦後」(名古屋大学、2009年)に参加。『美術手帖』などに寄稿。

池上裕子 いけがみ・ひろこ

大阪大学グローバル COE特任助教。日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブ副代表。専門分野は第二次世界大戦後のアメリカ美術と美術シーンのグローバル化。大阪大学とイェール大学で近現代の美術を専攻、2007年にイェール大学でPh.D.取得。2010年にMIT Pressより*The Great Migrant: Robert Rauschenberg and the Global Rise of American Art*を出版予定。

尾崎信一郎 おさき・しんいちろう

鳥取県立博物館副館長。兵庫県立近代美術館、国立国際美術館、京都国立近代美術館を経て2006年より現職。著書に『絵画論を超えて』、共著に『美術批評と戦後美術』など。主な展覧会に*Out of Actions: Between Performance and the Object* (ロサンゼルス現代美術館ほか巡回、1998年)、「痕跡—戦後美術における身体と思考」(京都国立近代美術館、2004年)など。

加治屋健司 かじや・けんじ

広島市立大学芸術学部准教授。日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブ代表。東京大学大学院総合文化研究科博士課程、ニューヨーク大学大学院美術研究所博士課程、スミソニアンアメリカ美術館研究員を経て現職。アメリカと日本を中心とする現代美術史、美術批評史を研究。共著に『原典アメリカ史—社会史資料集』、『マーク・ロスコ』など。

北原恵 きたはら・めぐみ

大阪大学大学院文学研究科教員。表象文化論、美術史、ジェンダー論。女性アーティストや戦争画・国家・天皇の表象を研究。主な著作・論文に、『アート・アクティヴィズム』、『攪乱分子@境界』、「ベネトン広告に見る〈人種〉の構築と多文化主義」(『文化学年報』2003年)、「元旦新聞にみる天皇一家像の形成」(『性の分割線』青弓社、2009年)など。

建畠哲 たてはた・あきら

国立国際美術館館長。国立国際美術館主任研究官、多摩美術大学教授を経て現職。1990年、93年のベネチアビエンナーレ日本コミッショナー、2001年の横浜トリエンナーレ芸術監督。目下、2010年開催のあいちトリエンナーレの芸術監督。主な著書に美術評論集『問いなき回答』、『未完の過去』、詩集『余白のランナー』、『零度の犬』など。

前田恭二 まえだ・きょうじ

読売新聞文化部長。東京大学文学部卒(美術史専攻)。1987年、読売新聞社入社。美術記事などを担当し、シンポジウム「Count 10 Before You Say Asia: Asian Art after Postmodernism」(国際交流基金、2008年)などに参加。著書に『やさしく読み解く日本美術—雪舟から広重まで』(新潮社、2003年)。

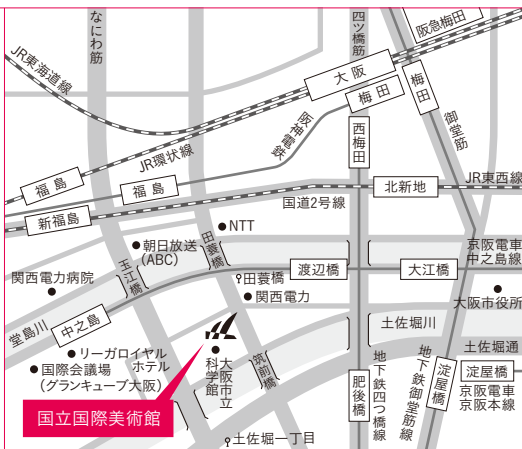
問い合わせ先

日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブ OralArtHistoryArchives@gmail.com
<http://www.oralarthistory.org/>

大阪大学グローバルCOEプログラム事務局 gcoejimu@hus.osaka-u.ac.jp



国立国際美術館
THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA
大阪府大阪市北区中之島4-2-55
<http://www.nmao.go.jp/>



- 京阪電車中之島線「淀屋橋駅」(2番出口)より南西へ徒歩約5分
 - 地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」(3番出口)より西へ徒歩約10分
 - JR「大阪駅」、阪急「梅田駅」より南西へ徒歩約20分
 - JR大阪環状線「福島駅」、東西線「新福島駅」(2番出口)より南へ徒歩約10分
 - 阪神電車「福島駅」より南へ徒歩約10分
 - 地下鉄御堂筋線「淀屋橋駅」、京阪電車「淀屋橋駅」より西へ徒歩約15分
 - JR「大阪駅」前より、市バス53号・75号系統で、「田袋橋」下車、南西へ徒歩約3分
 - 淀屋橋(土佐堀通/住友ビル一号館前)より、中之島ループバス「ふらら」で、「市立科学館・国立国際美術館前」バス停下車すぐ
- ※美術館には専用駐車場はありません。ご来館は、電車・バス等をご利用ください。
※心身に障害のある方で車での来館を希望される場合は、美術館北側の有料駐車場をご利用いただけますようお願いいたします。

【表写真】 左列(上から): 石原友明(写真右)、石元泰博、李禹煥、堂本尚郎、川添登(写真右)
右列(上から): 嶋本昭三、池田龍雄、水上旬、藤本由紀夫(写真右)、桑山忠明